




世界史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は 11 ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. これは、世界史 B の問題である。解答用紙が出願時に選択した科目であるかどうか確認のうえ、解答すること。
3. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
4. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合し確認すること。
5. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入すること。
7. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 文字は一点一画まで正確に書くこと。
10. 解答用紙は持ちかえらないこと。
11. この問題用紙は必ず持ちかえること。
12. この試験時間は 60 分である。
13. マークの記入例

良い例	悪い例
	  

[I] 次の文章を読み、下線部(1)～(7)にかんする設問 1～設問 7 に答えなさい。また、空欄(ア～ウ)にそれぞれ対応した設問 8～設問 10 に答えなさい。

8 世紀から 12 世紀にかけてのヨーロッパは、現在よりもはるかに温暖であった。ノルマン人はアイスランドを経て、982 年にグリーンランドを発見し、当時⁽¹⁾「緑の島」であったこの島の南端部分に植民をした。また、乾燥温暖な地域の作物であるワイン用ブドウ栽培の中心地は、現在よりもずっと北にあった。フランスのワイン生産の中心はパリ盆地とその北部のエヌ川流域であったし、12～13 世紀のイギリスでもワインが生産されていた。ところが寒冷期の 14 世紀に入ると、イギリスはブドウ栽培を放棄し、それ以降、ワインについては輸入に頼ることになる。

気候の変動が人口の増減や社会の安定性とどのように関係しているのかを問うことは難しい。だが、一般に、比較的温暖であった西暦 1000 年ごろから 300 年間ほど、西ヨーロッパでは人口が飛躍的に増加し、社会は安定と成長の時代に入ったとされる。農業技術の進歩により農業生産が増大する一方で、おびたashi⁽²⁾数の都市が建設された。また、この時期には、イベリア半島での国土回復運動、ドイツ人による ア 川以東への東方植民、イングランドのノルマン朝の建設など人の移住が活発になったが、こうした西ヨーロッパ社会の外部への拡大は、人口増加という圧力を抜きにしては説明し得ない。修道院もまた、これまで以上の人たちを迎え入れた。十字軍遠征は膨大な男子人口のはげ口としても機能していた。⁽⁴⁾すなわち、当時の社会は過剰人口に活動の場を与える手段、もしくはそれを他所にさばく手段を見出していたのである。

寒冷期の 14 世紀のヨーロッパは、しばしば「危機の時代」と形容される。14 世紀初頭からは雨の多い不順な天候が続き、1309 年、まずドイツで食料不足が起きた。飢饉の波はやがてヨーロッパ北部全域に拡大し、その後、徐々に南下し地中海沿岸部に到達した。こうした慢性的な食糧不足による栄養不良に苦しむヨーロッパの人たちに、1348～49 年、黒死病の大波が襲いかかったのである。この黒死病の大流行は、ヨーロッパの全人口の 25～30 パーセントを死に至らしめたと推定される。百年戦争の惨禍もこの状況に加わった。都市と違って防備施設をもたない農村は、⁽⁶⁾破壊と略奪の場となり、生き残った農民は安全と収入の道を求

めて都市に移動した。その結果、各地に廃村ができる事態となった。

中世ヨーロッパの医学にかんしていえば、それはギリシア、ローマの医学に基づいていた。ただしそれらの知識の多くは、12世紀以前の西ヨーロッパ世界ではほとんど忘れ去られていた。まずはアラビア世界に移入されており、それが12世紀にとりわけトレドにおいてアラビア語からラテン語へ翻訳され、西ヨーロッパに広がっていったのである。医学の専門的な研究は、まず南イタリアの 大学でおこなわれ、13世紀にはそれがボローニャ大学、モンペリエ大学、パリ大学でもなされるようになった。学生は1人の教師に師事し、⁽⁷⁾ 実技を習得するために教師の伴をして患者をみてまわった。そして学生は授業に出席した。授業では 、ガレノス、イサークなどの著作についての註釈がなされた。解剖学については、その講義も実習もほとんどおこなわれず、ときたま学生が犯罪人の死体を手に入れたときになされたただけであった。

設問 1 この時期には第2次民族移動が展開した。アイスランド、グリーンランドのほかに、ノルマン人が支配を確立した土地として、あてはまらないものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. シチリア島
- B. チュニス
- C. ノヴゴロド
- D. 北フランス

設問 2 下線部(2)にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. ロンドンは、ブリテン島の経済の中心となり、12世紀末に国王から自治権を獲得した。
- B. ヴェネチアは、レヴァント貿易によりオリエントの香辛料や絹織物といった商品を輸入して繁栄した。
- C. 北イタリア諸都市は、神聖ローマ皇帝フリードリヒ1世のイタリア南下政策に対抗し、ロンバルディア同盟を結成し、ギベリンとして戦った。
- D. ハンブルクやブレーメンなどの諸都市は、リューベックを盟主とするハンザ同盟に参加した。

設問 3 10～13 世紀のローマ＝カトリック教会にかんする説明として、誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 教会の腐敗と世俗化に対し、内部から批判し改革しようとする教会刷新運動の中心となったのは、クリュニー修道院である。
- B. フランス中部に設立されたシトー修道会は、開墾運動で活躍した。
- C. 教皇グレゴリウス 7 世は、教皇権の至上性と俗権に対する優越を宣言し、神聖ローマ皇帝ハインリヒ 4 世と決定的に対立した。
- D. 個人財産を持たずに信者からの托鉢によって説教をおこなう托鉢修道会が誕生し、農村を中心に活動した。

設問 4 第 6 回・第 7 回十字軍を組織したフランス王ルイ 9 世にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. イギリス王ジョンと戦って、ノルマンディーをはじめ大陸内のイギリス領土を奪った。
- B. 異端のアルビジョワ派を平定して、王権を南フランスに広げた。
- C. 北アフリカのチュニスを攻撃したが、その地で病没した。
- D. モンゴル人との提携を企て、フランチェスコ修道会のルブルックをカラコルムに派遣した。

設問 5 下線部(5)の状況として、誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. リトアニア大公ヤゲウォは、ポーランド女王と結婚してポーランド国王となり、リトアニア＝ポーランド王国が生まれた。
- B. オックスフォード大学の神学教授ウィクリフは、聖書主義を唱え、聖書の英訳とその普及につとめた。
- C. デンマーク・スウェーデン・ノルウェーの3国のあいだに、カルマル同盟が結ばれ、同君連合の王国が成立した。
- D. イタリア支配をめぐって神聖ローマ皇帝とフランス王のあいだでイタリア戦争が起こった。

設問 6 当初、イギリス軍が優勢であったこの戦争において、自ら軍を率いてオルレアンを包囲していたイギリス軍を撃退し、ランスにおけるシャルル7世の戴冠式を実現させた人物は誰か。人名を解答欄に書きなさい。

設問 7 『ガルガンチュア物語』の作者であり、この大学で医学を修めた人物は誰か。人名を解答欄に書きなさい。

設問 8 (ア)に入るもっとも適当な語句を解答欄に書きなさい。

設問 9 (イ)に当てはまる都市名を、解答欄に書きなさい。

設問10 (ウ)には、紀元前 460 年頃にコス島に生まれたとされる古代ギリシアの医学の大成者で、「医学の父」と称される人物の名前が入る。人名を解答欄に書きなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、空欄(ア～エ)にあてはまる語句を解答欄に記入しなさい。また、下線部(1)～(5)にかんする設問(1～5)、ならびに空欄(①～④)にかんする設問6に答えなさい。

16世紀に新大陸を二分したスペインとポルトガルに対し、この2カ国に後れを取るまいとイギリスは私^{しだほ}拿捕などを利用して異議を唱えるとともに、植民地経営に乗り出していく。16世紀末にイギリスによる北米最初の植民地建設が始まるが失敗に終わり、ジェームズ1世の治世である⁽¹⁾1607年にこの王の名を取ったジェームズタウンが建設され、ようやく永続的植民地が確立される。のちに大西洋岸北部に新たな入植地が発展し、17世紀半ばから始まるイギリス＝オランダ戦争で北アメリカのオランダ領ニューネーデルラントのほとんどがイギリス領になるにいたり、18世紀前半までには独自の議会を擁するいわゆる「13植民地」⁽²⁾が形成された。

イギリスは植民地の発展にしたがってとりわけ西側、アパラチア山脈以西への領土の拡張を狙ったが、そこにはフランス領が横たわっていた。①戦争、②戦争や③⁽³⁾戦争など、ヨーロッパでの戦争のたびに英仏間で植民地争奪が行われ、ヨーロッパの④戦争とほぼ並行して行われたア戦争でイギリスが勝利し、1763年のパリ条約の後、イギリスはミシシッピ川以東を獲得、領土を大きくひろげることになった。イギリスは、それまで重商主義政策を厳密には運用しない「有益なる怠慢」と呼ばれる政策をとってきたが、財政難などから王権強化を図り、植民地自治への干渉を始めた。それに対して植民地側は、印紙法には「イ」の原則を理由に反対し、茶法にはボストン茶会事件を引き起こすなど激しく反発した。こうした対立を経て、アメリカ独立戦争が勃発する。1783年のパリ条約の結果、イギリスは植民地の独立を承認しミシシッピ川以東の領土を割譲した。

独立後、西側への領土拡張の熱は西漸運動⁽⁴⁾に引き継がれ、19世紀初めにジェファソン大統領がナポレオンからミシシッピ川以西のフランス領を買収、スペインからのフロリダ買収、1836年にメキシコからの独立を宣言したウを併合、アメリカ＝メキシコ戦争の際のカリフォルニアほかの割譲、さらには「ガ

ズデン購入」によるアリゾナとニューメキシコ南端部の獲得を経てほぼ現在の領土を完成させた。西部開拓は基本的には土地投機の意味合いが強かったものの、エという言葉がさかんに用いられてわずかな期間で行われたこうした領土拡張が正当化された。

インディアン(ネイティブ・アメリカン)についても植民地時代は独立した存在として認められていたが、やがて大規模な討伐が行われた。西漸運動はインディアンの強制的排除を意味するものでもあり、19世紀後半には西部の保留地へと追いやられた。⁽⁵⁾

設問 1 エリザベス 1 世の寵愛を受け、この植民地建設を試みた者を以下から選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- | | |
|----------|---------|
| A. ローリ | B. ドレーク |
| C. ホーキンス | D. カボット |

設問 2 13 植民地にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. オランダ領の中心地だったニューアムステルダムはイギリス領となってニューヨークと名を変えた。
- B. 五大湖周辺のおハイオやミシガンでは早くから製鉄業が発達していた。
- C. 南部植民地では大農場(プランテーション)経営によるタバコ・藍・米などが中心産業であった。
- D. マサチューセッツをはじめとする北部植民地では、ピューリタニズムや民主主義といった精神的風土がみられた。

設問 3 北アメリカ大陸のフランス領にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. フランスは当初この地域を毛皮交易に利用していたため、植民を目指したイギリスより早くに支配域をひろげた。
- B. 探検家バルボアはミシシッピ川を河口まで探索し、その一帯をルイ14世にちなんでルイジアナと名づけた。
- C. 1763年のパリ条約でカナダはイギリス領となったが、フランス語は現在もカナダの公用語のひとつとされている。
- D. ジャズの発祥地として知られるアメリカ合衆国のメキシコ湾岸都市、ニューオーリンズはフランス領の中心都市のひとつだった。

設問 4 西漸運動にかんする説明として正しいものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. モンローは西部出身の初の大統領であり、白人男性普通選挙制などの民主的政治を推進した。
- B. 公有地で5年間定住し、その地を開墾した者に土地を無償で与えたカンザス・ネブラスカ法は、西部と北部を結びつけた。
- C. 西漸運動とあいまって経済成長を遂げたアメリカの風潮を、『アングル＝トムの小屋』の作者ストウ夫人は「金ぴか時代」と揶揄した。
- D. 19世紀半ば頃に北アメリカにやってきた中国系の移民はその後大陸横断鉄道敷設の労働力ともなり、結果的に西部開拓を促した。

設問 5 この頃までのアメリカ合衆国にかんする説明として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. ロマン主義がさかんになり、ホイットマンの『草の葉』などが生みだされた。
- B. カリフォルニア獲得以降アメリカの目は外にも向き始め、日米和親条約を締結した。
- C. ロスチャイルドによって設立されたスタンダード石油会社がトラストを形成した。
- D. 技術革新が進み、ベルが電話機を発明した。

設問 6 空欄(①~④)を埋める戦争名が年代順に並べられているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. オーストリア継承戦争, スペイン継承戦争, ファルツ(継承)戦争, 七年戦争
- B. ファルツ(継承)戦争, スペイン継承戦争, オーストリア継承戦争, 七年戦争
- C. オーストリア継承戦争, 七年戦争, ファルツ(継承)戦争, スペイン継承戦争
- D. ファルツ(継承)戦争, スペイン継承戦争, 七年戦争, オーストリア継承戦争

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、空欄(1～10)に当てはまる適切な固有名詞を解答欄に記入しなさい。

レゲエは大衆音楽の一ジャンルとして定着しているが、これがラスタファリ運動の宗教歌の中から生まれたことは余り知られていない。ラスタファリ運動はカリブとアフリカ双方の黒人たちが300年以上にわたって経験してきた抑圧の歴史を背景に生まれた特異な千年王国運動である。カリブの黒人の祖先は16世紀末から19世紀の奴隷貿易によって西アフリカから連れてこられた。奴隷貿易は西欧に巨万の富をもたらしたが、アフリカとカリブには低開発と非人間的抑圧をもたらした。西アフリカでは沿岸部の [1] 王国などが奴隷輸出で東の間の繁栄を謳歌した反面、奴隷争奪戦により内陸部は荒廃した。また経済の中心が沿岸部に移ったためトランスサハラ交易が衰退し、トンプクトゥなどの [2] 川中流域の諸都市が没落した。一方、カリブではプランテーション化が進み、黒人たちは過酷な労働を強いられ、奴隷制度の廃止後もその状況は改善されなかった。

この絶望的状况の中でカリブではアフリカを地上の楽園と信じるアフリカ帰還思想が現れた。この動きは欧米の黒人知識人にも影響を与え、人種主義に反対し黒人の政治的連帯をめざす運動へと発展した。この運動が母体となってパン・アフリカ会議が開かれると、それに参加したアフリカ人による自立と連帯の運動も始まった。その象徴とも言える人物が [3] である。 [3] は、イギリスが1902年に [1] 王国を保護国化し、その領土を中心に建設した英領ゴールドコーストで独立運動を展開した。そして、1957年には隣のトーゴランドを合わせて、サハラ以南の最初の黒人独立国家となる [4] を建国した。その後、 [3] は全アフリカ人民会議を開催するなどアフリカの政治統一をめざす運動を主導していった。この運動は1960～61年に [5] の革新的指導者であった [6] 政権に対するクーデタを巡る東西対立の影響を受けて分裂したが、1963年にエチオピアの首都で開かれた首脳会議で対立が調停され、アフリカ統一機構が結成された。だが、カリブのアフリカ帰還思想の方はむしろ宗教的色彩を濃くしていった。

カリブでアフリカ帰還思想が生まれた頃、アフリカの状況は一段と悪化していた。西欧諸国が19世紀後半にアフリカ中南部への本格的侵略を開始していたからだ。特にベルギー国王が [5] を実質的に私領化しようとした事件を契機に1884～85年のベルリン会議でアフリカ植民地化の原則が作られ、その後の20年ほどでアフリカのほぼ全域が植民地化された。アフリカ人は伝統的生業を奪われて、地下資源開発等の強制労働に動員され、抵抗すれば極めて残忍な方法で虐殺された。例えば、 [7] 領西南アフリカ(現ナミビア)ではヘレロ人とナマクア人が絶滅寸前まで殺戮され、同じく [7] 領の東アフリカ(現タンザニア)でも綿花の強制裁培に反対する [8] 蜂起が発生したが20万人もの犠牲者を出して鎮圧されるなど、アフリカは地上の楽園どころか抑圧の大地に変わっていた。

[8] 蜂起が「魔法の水」の霊力を信じて銃弾を恐れなかったように、初期の抵抗は機関銃に槍で立ち向かう無謀なものが多かったが、エチオピアは例外的に軍の近代化に成功し、 [9] の戦いでイタリア軍を破って独立を維持した。エチオピアの内情は一握りの特権階級が土地を独占する抑圧的なものだったが、外部の黒人たちは「アフリカの自由の砦」として期待をかけた。キリスト教化されたカリブの黒人たちもエチオピアに一方向的な思い入れを抱いていた。彼らの間では聖書に登場する黒人国家であるエチオピアが早くから神聖視されていたが、これにアフリカ帰還思想が融合し、「黒人の王が即位するとき、彼こそが救済者となろう」という予言が待望されるようになっていた。そして、1930年にラス・タファリが皇帝ハイレ・セラシエとして即位したニュースが伝わると、人々は救世主の降臨を確信したのである。ハイレ・セラシエの治世は矛盾に満ちたもので、アフリカ統一運動に共感する一方、抑圧的な独裁体制を続け、1962年にはそれまで連邦を形成していた [10] から自治権を奪って内戦の火種を撒き、晩年は軍のクーデタによって廃位された。それでもラスタファリアンたちはハイレ・セラシエは神、エチオピアは地上の楽園と信じ続けている。レゲエのリズムは耳に心地よいものだが、それはカリブの黒人社会に深く根ざした絶望的な怒りの表現でもあるのだ。

〔IV〕 極東進出を目指したヨーロッパ列強は、19世紀の半ばから終わりにかけて、アジアの朝貢システムの中心に位置していた清朝と対立を深めていく。アヘン戦争以降、イギリス、フランス、ロシアの三国がそれぞれ、清朝の影響下にあったどの地域を求めて進出し、その結果どのような権益を獲得したかに関して、下記の用語を全て用いて、200字以上250字以内で説明しなさい。（解答は横書きとし、下記の用語には下線を引くこと。括弧や句読点は1マス1字に数え、数字を用いる場合には1マス2字とする。）

アロー号事件、清仏戦争、アイゲン条約